

事業の概要

瀬戸内海の多島美をいつまでも残すプログラム「海ごみ問題」を学ぶ、をタイトルに環境学習プログラムを実施する。

<実施プログラム内容>
 日程 2025年10月3日（金）
 人数 18名様

- ①「香川県の海ごみの現状と課題」について受講
- ②「海洋環境整備船 美讃」について受講
- ③サステナブルな食体験（未利用魚や規格外野菜を利用したランチ）

実施体制

実施主体	公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー
連携団体との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・高松観光コンベンション・ビューロー：環境学習、「美讃」船内見学（または講座）手配、全体コーディネート。 ・国土交通省 四国地方整備局 坂出港湾・空港整備事務所：「美讃」船内見学実施 ・NPO法人アーキペラゴ：海ごみ問題講座 ・クセモノズ、サステナブルラウンジ：会議室、ランチ会場利用
地域を挙げて観光コンテンツを磨き上げる・作成するにあたって工夫する点	船舶航行の安全を確保し、海域環境の保全を図るため、東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明・八代海の海域において、11隻配備されている海洋環境整備船の1隻「美讃」を活用することは地域ならではの体験。またSDGsの観点の食との組み合わせにより深く理解を促進できるコンテンツ。自治体、事業者、NPOが連携し一体となって取り組む体制づくり。



地域の現状・課題および事業実施により期待される効果

ドイツの有名な地理学者リヒトホーフエンが「これ以上のものは世界の何処にもないであろう」と絶賛した瀬戸内海の多島美。しかしながら、一方で海ごみ問題が存在するのも事実。瀬戸内海は周囲を囲まれた閉鎖性海域のため、海ごみの多くは周辺の陸域から流れ込んだものだと考えられる。瀬戸内海のごみ問題は、私たちの身近な問題。一人一人が、ポイ捨てをしないことが、瀬戸内の海底ごみ問題の解決の第一歩。そのアクションに繋げるためにまずは現状を学べるエクスカーションプランとして設定することにより、MICE参加者が地域の現状や世界の課題を知る機会を与えることが可能。

次年度以降の展開

コンテンツの背景にある物語をガイドや映像を通して伝えられるストーリーテリングを行い「質」を上げる。地域全体で一つのブランド（＝サステナブル）として発信し本市が登録しているGDS-index（サステナブルな街づくり）に関連付ける。

